

はしの なし

第三稿 西の橋ものがたり

「はしのはなし」では、皆さんに横浜の橋の歴史や小話を、定期的に紹介していきます。第3回目は、西の橋について。

西の橋は中区の堀川に架かる橋で、横浜開港の歴史に深く関係する橋のひとつです。そんな西の橋の誕生から架け替え、現在までをはなしていきましょう。

1 西の橋はどこにあるのか？

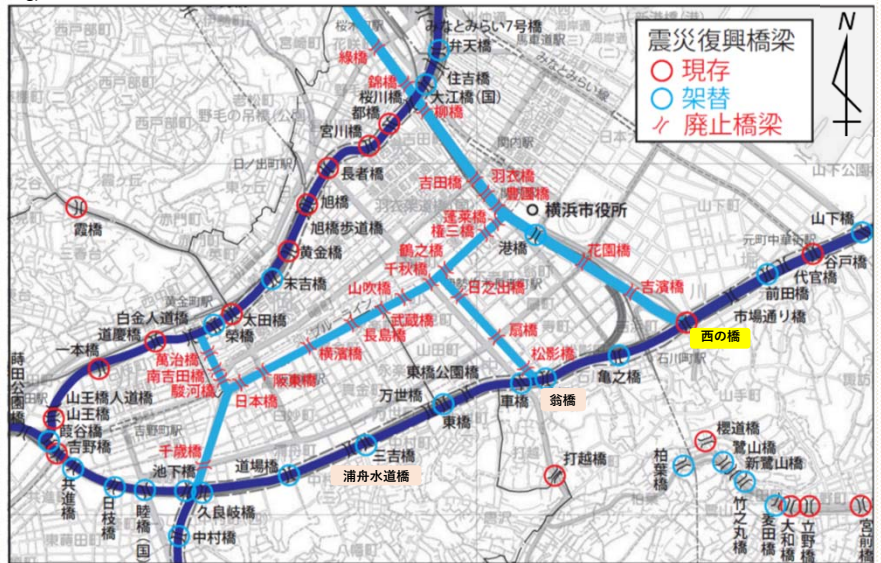
西の橋は、右地図のとおり中区をながれている堀川の最上流に架かる橋です。

横浜市内には大正12年（1923）の関東大震災の復興橋梁として178もの橋が架けられましたが、西の橋は現存する40橋のうちの1橋です。西の橋は後に説明します歴史的な価値等が認められ、横浜市歴史的建造物や、かながわの橋100選、土木学会選奨土木遺産に認定されています。

【諸元】

- ・ 名称：西の橋（にしのはし）
- ・ 橋長：32.8m
- ・ 幅員：22.0m
- ・ 竣工：大正15年(1926)11月
- ・ 橋種：2ヒンジリッドリブアーチ橋

a



関内・関外エリアの地図。大岡川には現在も比較的多くの震災復興橋梁が残るが、中村川・堀川は吉野橋、西の橋、谷戸橋を残してすべて架け替えられた

b



西の橋を上流から望む、川に沿って首都高速道路が架かる

c



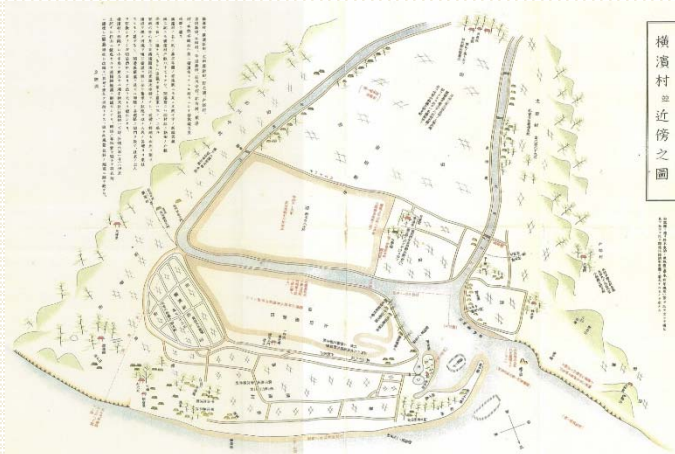
西の橋を下から望む、構造が美しい

2 西の橋はいつから架かっていたのか。

下図 d は「横濱村並近傍之圖」で嘉永4年（1851）の関内周辺の地図です。横浜開港の8年前は現在の堀川がまだ存在しないことが確認できます。それではいつ堀川はできたのか。

安政6年（1859）に横浜が開港すると、幕府は横浜村を日本大通りを境に横浜村の東側を外国人居留区、西側を日本人商店街に分けました。また、横浜村・横浜新田・太田屋新田を出島化するため、1860年に元町沿いに堀川を築造します。さらに同年、谷戸橋と前田橋、さらに翌年に西の橋が堀川に架けられ、各橋に関所が設けられました。これにより外国人の警護がしやすくなり、水上交通の便もよくなりました。ちなみに、このとき横浜村の住民90戸は隣接する本村に強制移転させられ、その年の2月に「本村」を「横浜元町」に地名変更したのが、現在の元町になります。

d



横濱村近傍之圖（嘉永4年（1851）頃）

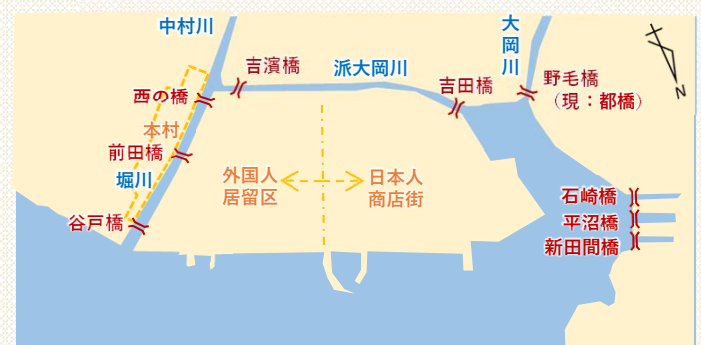


左地図の説明。堀川がまだできていないことが確認できる

e

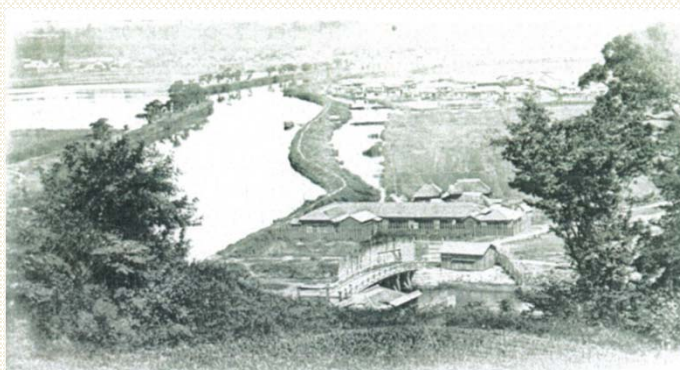


横濱明細全圖（元治元年（1864））



堀川が完成し、出島化したことが確認できる

f



山手から横浜新田方面を望む。中央が初代西の橋と関門、見えている川は派大岡川（1864-1865頃推定）

g



堀川が出来た10年後の拡張工事。このタイミングで西の橋は架け替えられたかもしれない

3 プラットトラス橋・市電専用橋

初めて西の橋が架かるとされる1861年から32年後の明治26年（1893）に西の橋は右図hの橋に架け替えられます。橋の形式はプラット・トラスといい、神奈川県の技師だった野口嘉茂氏が設計しました。また、プラットトラスの西の橋は現在の橋の位置より下流側に架かっており、現在の位置には西の橋の市電専用橋が架かっていました。

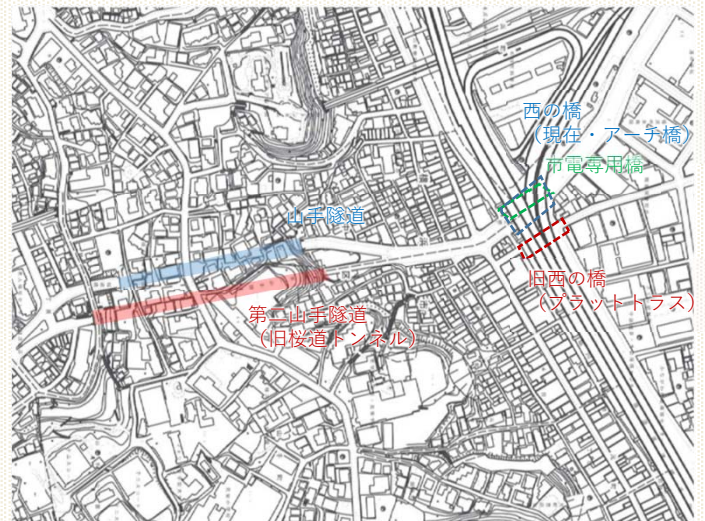
明治44年（1911）12月25日まで市電は西の橋が終点でしたが、その後本牧方面への延伸に伴い、市電専用橋と桜道トンネルが建設されます。現在桜道トンネルは改修工事の後、山手第二隧道に名を変え、歩車道用のトンネルとして市民の生活を支えています。

h



プラットトラスの西の橋

j



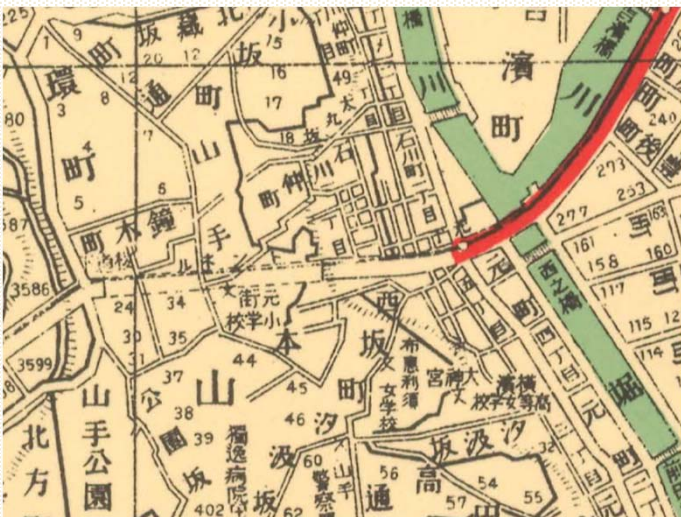
現在地図にプロットした。プラットトラス西の橋が架かっていたことが道路の線形から確認することができる

l



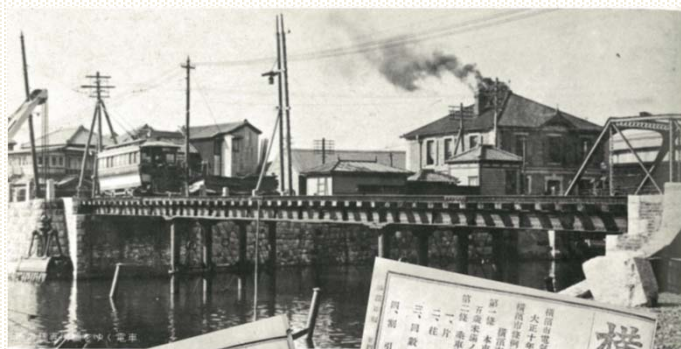
西の橋の先には桜道トンネル（現：第二山手隧道）がある写真は本牧方面からトンネルを望む

i



横濱新地図（大正8年（1919））西の橋の上流に市電専用橋が架かっているのが確認できる

k



市電専用橋の西の橋。右端にプラットトラスの西の橋が確認できる

引用 h：横浜開港資料館[編]、「100年前の横浜・神奈川絵葉書でみる風景」、株式会社有隣堂、1999年出版

i,j：橋梁課所蔵

k：横浜市交通局[編・発行]、「ちんちん電車 ハマツ子の足70年」、昭和47年3月20日発行

l：横浜開港資料館[編]、「20世紀初頭の横浜」、財団法人横浜開港資料普及協会、平成9年8月1日発行

4 関東大震災、戦災、その後…

大正12年（1923）9月1日の関東大震災により、西の橋も被災します。落橋はしなかったものの、木で造られた床材は焼失したようです。復興事業で架け替えられた西の橋は前述のとおり市電専用橋があった位置に架け替えられます。その後、戦災や首都高速道路の建設を経て現在まで現役で市民の生活を支えています。

m



工事は、まず市電の仮橋を設けた後、市電専用橋のあったところに新しい西の橋を架けた。写真は左から市電の仮橋・新橋の橋台、旧橋が並んでいることが確認できる

o



昭和45年（1970）頃、市電が通っているのが確認できる

n



市電も人も車も通れるように架け替えられた西の橋。アーチ構造の新橋の奥にトラス構造の旧橋が確認できる。（昭和2年（1927）1月12日撮影）

p



昭和58年（1983）10月頃。橋上に高速道路がかけられ始める

5 現在も西の橋は2橋存在する？

関東大震災の前まで市電専用橋も含め西の橋は2橋架けられていましたが、実は現在も旧西の橋は現役を続けています。関東大震災で廃止となったプラットトラスの西の橋の鋼材は、その復興事業で中村川の翁橋の架替工事に再利用されます。さらに、高速道路建設に伴う翁橋の架け替えの際、浦舟水道橋（現在の浦舟水道橋）の架替工事に翁橋の鋼材が再々利用されました。（位置は1項目の地図の文字着色部分を参照）

q



西の橋 明治26年（1893）竣工
大正12年（1923）9月被災、架替

r



翁橋 昭和2年（1927）年竣工
昭和61年（1986）12月解体、架替

s



浦舟水道橋 平成元年（1989）12月竣工

引用 m,n：東京大学社会基盤図書館所蔵
o：横浜都市発展記念館[編]、「図録横浜にチンチン電車が走った時代まちの主役！路面電車」、2012年1月出版
p：橋梁課所蔵、q：東京大学社会基盤図書館所蔵
r,s：橋梁課所蔵